

# ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学保育学科 / 子ども学科

講師 相沢 和恵

## 1. 教育の責任

2019～2020年度の担当科目は(表1)の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
基礎演習	2019	通年	1年生	演習	70名	4クラス 教員4名
総合演習	2020	通年	2年生	演習	68名	4クラス 教員4名
キャリアアップ セミナー	2019	前期	1年生	演習	70名	4クラス 教員4名
キャリアアップ セミナー	2020	通年	2年生	演習	68名	4クラス 教員4名
保育内容D	2019	前期	2年生	演習	71名	2クラス 教員3名
実習指導	2019 2020	前期	1年生	演習	70名 73名	4クラス 教員4名
実習指導	2019 2020	前期	2年生	演習	71名	4クラス 教員5名
保育内容言葉	2019 2020	前期	1年生	演習	35名・35名 36名・37名	2クラス
言葉と表現の 指導法	2019 2020	後期	1年生	演習	70名 73名	2クラス 教員2名
保育内容総論	2019 2020	後期	2年生	演習	35名・36名 34名34名	2クラス
実習指導	2019 2020	後期	1年生	演習	70名 73名	4クラス 教員5名
教育実習	2019 2020	集中	1年生	実習	71名 73名	
教育実習	2019年 2020年	集中	2年生	実習	61名 64名	



が協働して2クラスの指導に当たった。「安全指導」「園外保育」の行事に絞り、両者ではどちらでも学外授業（埼玉県防災学習センター、埼玉県こども動物自然公園）を実施した。授業では具体的に、安全指導や園外保育の保育現場での概要の教授、学外授業での施設を訪問し実体験をする、安全指導では教材による指導または避難訓練をグループで立案、ロールプレイを行う、園外保育では、保護者への配布資料作成や当日の計画書立案する、などを実践した。いずれの実践も学生に学びの意味を明確に伝える、実際の現場の例を挙げながらより実践に近い状況を作り出す、自ら考えたことを言葉だけではなく文字、文章で表し、チームで保育をする、組織の中で保育をすすめること等を学生が意識して学びが得られるようにした。

#### （４）実習指導

##### 【ねらい】

主として教育実習、を円滑に行うため、「記録」することを中心にして必要十分な実習に関する知識・態度・技術・能力を習得する

特に事前指導では、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、習得すべき知識や技能等について知り、実習の意義を理解する

##### 【到達目標】

保育者であることを自覚し、基本的な実習態度を習得している。

保育場面の適切な観察を行うことができる。

観察をもとに振り返り・評価までの必要十分な実習日誌を作成できる。

幼児の発達等をふまえて保育実践にも参与できる。

##### 【授業の方法等】

全体講義、グループ別の演習、ディスカッション、実技等多様な形式で進める。

#### （５）実習指導・・・略・・・

#### （６）保育内容言葉

##### 【ねらい】

乳幼児の姿から言葉の意義や機能について考え、言葉を育て想像する楽しさを広げる児童文化財について学ぶ。

##### 【到達目標】

乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。

乳幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。

##### 【授業の方法等】

演習・講義を合わせて行う。

児童文化財の理解については、実習・模擬保育も取り入れレポート等にまとめる。

## (7) 言葉と表現の指導法

### 【ねらい】

領域「言葉」「表現」のねらい及び内容について理解し、生活や遊びの中で乳幼児が身に付けていく内容や育ちを踏まえて具体的な保育を展開する方法を学ぶ

### 【到達目標】

乳幼児の心情、認識、思考や動きを視野に入れ、保育を展開し適切な援助ができる。

言葉や表現について豊かな感性を養うための環境の構成と保育の展開について具体的に計画を立てることが出来る。

素材や教材について特性を理解しそれらを活用することができる

### 【授業の方法等】

教員2人体制でクラス分けの授業を展開する。

ICTを積極的に活用し、グループワーク・模擬保育などを取り入れる。

## (8) 保育内容総論

保育士養成課程で必修科目、幼稚園教諭養成課程で必修科目である本科目は、保育者養成2年課程の後期に開講される。保育内容を総論として学ぶいわば保育の学びの集大成といえる。「遊びは学び」であるという、乳幼児期の保育・教育内容ならではの保育のありようについて、幼稚園や保育所の子どもの日々の生活を視覚教材を通して学ぶ、学生自身の幼少期や実習での体験を思い起こして学ぶ、実際に保育所の3歳児、4歳児、5歳児を本学に招きその事前準備や事後の振り返りも含めて子どもとの関わりを通して学ぶ、特別な配慮を必要とする子どもの幼稚園での保育場面の視聴覚教材を通して学ぶ、乳幼児期に育てたい3つの資質・能力と、5領域、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿との関係について、幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説書を基に学ぶ、等の段階をふみながら、保育者として保育そのものの楽しさのみならず、保育の質を常に高めていくという覚悟も意識化出来る学びに繋がる内容を目指し授業をすすめる。

### 【ねらい】

- ・保育の基本を踏まえた園における保育内容の考え方を理解する。
- ・乳幼児の発達を見通した指導計画の作成を理解する。
- ・乳幼児の実態に応じた具体的な保育内容を理解する。

### 【到達目標】

- ・遊びを通しての総合的な保育の意義と保育者の役割が説明できる。
- ・乳幼児理解に基づく評価について説明できる。
- ・乳幼児にとっての行事の意義を理解し、園行事のあり方を説明できる。

- ・模擬保育を通してねらい及び内容に沿って総合的に保育する力を身に付ける

【授業の方法等】

演習・講義を合わせて行う。

課題に沿ったグループ討議やレポート提出を求める。

(9) 実習指導 . . . 略 . . .

(10) 教育実習□ . . . 略 . . .

4、教育の成果、評価

本学では、毎年前期と後期末に学生に対して授業アンケートを実施している。ここでは2019年度の前期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施したものと2019年度後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施したものの結果を示す。

問1：学生自身の取り組み、 問2：授業の内容、 問3：授業方法

問4：総合評価、自由記述は表2のとおりである

ここでは、アンケート結果の一例として「保育内容D」「実習指導1」「保育内容言葉」「保育内容総論」「言葉と表現の指導法」の結果を示す。

	問4 全体的に観て、この授業に 対するあなたの評価はど の程度ですか 5点満点	自由記述欄
保育内容D	3.95	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育の実踏調査など勉強になった</li> <li>・グループで協力して取り組むものが多くてよかった</li> <li>・体験学習があり、現場での想像ができた</li> <li>・実践的なものが多く身になった</li> <li>・演習が多く、保育現場に出たときに役に立ちそうなことを学べて楽しかった</li> <li>・授業の中で最近の話題に関して自分だったらと考える機会がありよいと思った</li> <li>・提出物の期限に余裕があってよかった</li> <li>・授業内提出するプリント課題の時間が足りないことが多かった。課題があるときは前もってどんな課題かを伝えてもらえれば、下準備や考える時間をいただけると焦ることなく取り組めるかと思った</li> </ul>

実習指導	4.46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても役に立つ授業内容で、動画を見てのワークシート記入など面白かった</li> <li>・実習前に記録の仕方など学べて良かった</li> <li>・知識が深まった。実習で活用できるように努力したい</li> </ul>
保育内容言葉	4.47	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく丁寧に教えてくださり、言葉についての理解がとても深まった</li> <li>・文章力がついたと思う</li> <li>・質問に対して受け止め、丁寧な返答で理解しやすかった</li> <li>・実際に先生が私達に絵本の読み聞かせをして下さるのが、とても勉強になった</li> <li>・参考文献や教材、資料等が毎回準備されていて分かりやすかった</li> <li>・手遊びなども学びながら、子どもの言葉の発達について学べたのでとても良かった</li> <li>・文章の書き方から学べて、「言葉」に対する知識を詳しく深めることが出来た</li> <li>・授業前に教科書を読んでおく習慣がついた</li> <li>・学習内容シートで文章添削をしてもらえるのが大変有り難い</li> <li>・学習内容シートをまとめるのは苦手だったが、文字数を意識して要点をまとめるよいトレーニングだったと思う</li> <li>・毎回、授業の始まりに前回の復習を行う点が、学びになった</li> <li>・毎回学生達のために授業の準備をしっかりとされていると感じる。1回の授業で多くの内容をもう少し深く学びたいと思うときがある</li> <li>・手遊びや言葉遊びなど、遊びのレパートリーが増えた</li> </ul>
保育内容総論	4.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考える時間を多く作ってくれて、学びが深まった</li> <li>・事例を交えての授業だったので、知識が高まった</li> <li>・授業がとても分かりやすく、楽しく受けられた</li> </ul>
言葉と表現の指導法	4.59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案の書き方が学べてよかった</li> <li>・実習等に役立つ知識や活動を、実際にやってみながら楽しく学べた</li> <li>・現場で役立てられる知識も得られた</li> <li>・子育てフェスティバルの準備に多くの時間を使ったが、指</li> </ul>

		導法の授業そのものの授業の回数とその分減ってしまい、少ないと思った
--	--	-----------------------------------

保育内容Dは3人の教員で2年生4クラスを2クラスずつをオムニバスで担当し、「安全教育」「園外保育」の2つのテーマで講義と演習を進めた。校外学習の機会も其々に設けたことが、学生の自由記述で「体験学習があり、現場での想像ができた・演習が多く、保育現場に出たときに役に立ちそうなことを学べて楽しかった」等に繋がったと考える。レポート等の課題に関して教員間で丁寧に打ち合わせを行う時間的余裕がない分、どうしても差異がでてしまい、この辺りが全体の評価を下げる一因になっていると思われる。

実習指導 は教員4名で担当している。1年生前期科目で、保育者になるための始めの一步として、実習指導 の授業内容が担う役割はとても大きい。実習の意義から始まり子どもの姿の読み取り、関わり方、保育体験（前述）の準備、振り返り、園見学の準備、振り返り、

保育実践ボランティアのねらいと進め方、実習日誌の書き方、オリエンテーションの受け方、と順に段階を経て、教育実習 に出るまでの準備と心構えを教授している。自由記述にある、「実習前に記録の仕方など学べて良かった、知識が深まった」「実習で活用できるように努力したい」等は、学生がこの授業を保育者になる為の必須科目として捉えている証と考える。

保育内容言葉の授業は、単独の講義科目である。再課程認定の要件として、今年度から新たに始まった。子どもの言葉の発達と保育者の援助の関係に着目して、演習を多く取り入れながらの展開であった。学生からの自記述は概ね前向きな良好なもので、1年生前期の、初めての保育内容についての学びとして、実りの多い授業が展開できた。特に、言葉に関連して、ほぼ毎回の授業で、学生が学びを学習内容シートに記入し提出したものに添削指導を行い返却する方法は、教員と学生の往還的学びに繋がり、アクティブラーニングとなっていて、学生の自主的な豊かな学びになったと考える。

保育内容総論の授業は2年生後期科目で、保育内容の学びの集大成として位置付ける科目である。保育は5領域がそれぞれ単独にあるのではなく、子どもの遊びや育ち、併せて保育者の保育そのものを捉える5つの視点という考え方や、保育は環境を通した子どもの自主的な遊びを中心にして展開されること等を特に強調して教授した。また、学内に実際に近隣の保育園児を招き行った演習授業は、保育者養成高野学びとて、学生に実践力をつける機会となりえており、学生、招いた保育所の保育者、子ども達からも多くの称賛が得られており、引き続き内容と方法を工夫して授業に取り入れていきたい。

言葉十表現の指導法の授業は教員2名出担当し、それぞれが専門分野で教授した。担当した言葉の指導法に関しては、指導案の書き方、指導案に沿った教材作成、実演のロールプレイ、実践に対する評価のPDCAサイクルを授業内で実際に行った。実際の保育活動の体験的学びを組み込んだことが、学生の学びを深めたと考える。

## 5、教育の改善に向けた今後の課題

### 実習指導

<p>短期的目標</p>	<p>学生を4グループに分け、教授内容に即した授業形態にする方法は今後も続け、さらには、全体での授業とグループに分かれての授業での成果を数値的に明らかにし、どの形態がより学びが深まるのかを検証する</p> <p>実習に向けての準備は、細やかな積み重ねであることは、学生一人一人に理解されている。文章力や見通しをもった計画的な準備力等については個人差が非常に大きいので、4グループの分け方(現在は単純な学籍番号順)を学生のタイプ別等で決める方策を考えたい</p>
<p>長期的目標</p>	<p>保育者養成校としてどのような保育者像が望ましいのか、その保育者像に照らし合わせて、どのような教授方法が適切なのかを、子ども学科全教職員が話し合いを重ね、方向が見出せるようにしていく</p> <p>実習園との協働も見据えた保育者養成とするための実習巡回のあり方や巡回後の振り返りについても、子ども学科全体で共有したい</p>

### 保育内容言葉

<p>短期的目標</p>	<p>子どもの言葉の発達や保育者としての関わり方について、現代的課題を見据えた教授内容と教授方法を工夫する</p> <p>学生個別の力量に見合った文章力向上のための指導法を見出すと共に、子どもの発達に即した言葉掛けの在り方を学ぶ実践的な機会を多く持つ</p> <p>言葉だけに特化しない総合的な保育の多様な捉え方に関する指導法も、演習を多く取り入れて教授する</p>
<p>長期的目標</p>	<p>保育界の動向と「言葉」を巡る今日的課題を見据えた教授内容を精査する</p>

### 言葉と表現の指導法

<p>短期的目標</p>	<p>① 乳幼児の言葉の発達と、保育内容、指導法の関係について具体的な事例等を通して学びを深める教授内容とする</p> <p>② 学生個別に対応した指導案の立て方、実践、省察、改善のサイクルを見出す為の演習内容を工夫する</p>
<p>長期的目標</p>	<p>バイリンガル教育やコンピューター・リテラシー、更にはバリアフリーな言葉に関する教材も視野に入れた授業の構築を目指す</p>

## 5、エビデンス一覧

- ( 1 ) シラバス ( 保育内容 D、実習指導 、 保育内容言葉 )
- ( 2 ) 授業時配付プリント ( 保育内容 D、実習指導 、 保育内容言葉 )
- ( 3 ) 試験問題 ( 保育内容 D、保育内容言葉 )
- ( 4 ) 成績集計結果 ( 保育内容 D、実習指導 、 保育内容言葉、保育内容総論、言葉と表現の指導法 )